

めばえ



つき組の毎日

つき組生活が始まり一か月、クラスの雰囲気『つき組カラー』になってきています。旧クラスの友達の姿や担任の姿を懐かしむまなざしはまだありつつ、新たな友達との交流も増えてきました。子ども達の順応性の有様に、“嬉しいか”を感じます。そんなつき組の『毎日の生き活きスタイル』を、お伝えしたいと思います。

生き活きスタイル① 挨拶当番

登園3日目から、一人がみんなの前に立ち、「つき組のみなさん、おはようございます(さようなら)。」と挨拶をする当番活動をしています。「今日は誰が当番かな？」とワクワクウキウキしながら当番活動を行っています。当番ボードの写真をこっそりめくって、自分の番を指折り数えたり、次の当番を先に知って喜んだりしている子どももいます。みんなの注目を一身に浴び、ちょっとした緊張感を持って挨拶をリードする当番は、楽しみの一つになっています。ちびっこ先生が前に立つと、みんなの気持ちがスッと一つになるのですから、びっくりです。



次誰かな？

生き活きスタイル② 畑の水かけ



クラスのみんなで畑の水かけについて話し合いをしました。如雨露になる物ないかなあ？という問いに「わかった。牛乳パック。」「何かカップとか？」「あっ、思いついた。ペットボトル。」と、それぞれに思いを巡らせて発言してくれました。「自分でお家の人に話をしなね。」という宿題にも、しっかり応えてくれ、ほとんどの子どもが1日～2日で道具を持参してくれました(この日のために、ご準備して待っていて下さり、ありがとうございました。)。その後、持参した道具に、油性ペンやキラキラテープで模様を施し、好きなところに好きな数だけ穴を開け、オリジナル如雨露の完成です。

今では、毎朝の日課として畑に出向き、自分の野菜の育ち具合を観察しながら、水かけを楽しんでいます。みんなの力で、野菜のお世話が成り立っていることに、感心します。収穫の日まで気持ちが続くように、見守りたいと思います。



生き活きスタイル③ 給食もりもり

自園給食になり、出来立てホカホカの美味しい給食に、どの子どももすっかり魅了されています。「お味噌汁のファンになっちゃった。」「今まで食べたご飯の中で一番おいしい。」「この味気に入った〜。」「もっと食べたいな。」「幻の魚だね。」「魚の皮まで美味しいね。」と、食事をしながら大絶賛する声が響いています。おかわりが出来る嬉しさも、食欲に拍車をかけているようです。

厨房の方が子ども達の食事の様子を時々見に来てくれます。その時に、空っぽのご飯のおひつを見て、「すご〜い。」と目を丸くしていました。そして、「実は、つき組さん、どこのクラスよりも残飯が少なくて、一番よく食べるクラスです。」と教えてくれました。よく食べる担任に似てしまったのか…「つき組の子ども達よ、担任のぽっちゃり体形にまで似るなよ。」と心で呟きながら、「おかわりまだあるよ〜。」と子ども達を誘っては一緒に食べている担任なのでした。

